

CUC市民活動 サポートプログラム



Brush up Program
for professional

文部科学大臣
認定
職業実践力育成
プログラム

地域のために
役立ちたい！

NPO活動を継続させるには？

資金調達の方法は？

仲間が
欲しい！

専門家からスキルを学びたい！

CUC 千葉商科大学

index

プログラムの概要 ①

プログラムの特長 ②

卒業生の声 ③

講義スケジュール・内容 ⑦

募集要項 ⑮

大学からのメッセージ ⑮

CUC市民活動サポートプログラムの概要



「CUC市民活動サポートプログラム」は、企業、団体、地域で活躍するために役立つ知識と技術を総合的に学べるプログラムです。

コミュニティビジネス（行政だけでは解決しない、既存の企業では供給されていないサービスを提供する事業など）や地域密着型ビジネス、市民活動団体やNPOなど各種組織の効率化や発展に必要な経営・マーケティング・組織マネジメント等の知識とスキルを網羅的に学べます。

また、本プログラムは、主に社会人を対象とする学びなおしのための実践的・専門的な課程として、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受けています。修了者には学校教育法に基づき、所定の「履修証明書」が交付されます。

修了要件として、2026年度に開講する必修7科目合計35回、（合計61時間25分）を受講し、各講義について一定以上の成績評価を得た場合、「履修証明書」を発行し、「千葉商科大学認定 市民活動エンハンサー」の称号を授与します。

履修証明とは

2007年の学校教育法の改正により、大学等における「履修証明制度」が創設されました。この制度は、社会人の方などを対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付するものです。この履修証明書は、学びの内容を証明するもので、履歴書等にも記載できます。

職業実践力育成プログラム（BP）とは

社会人を対象とする実践的・専門的な課程で、①対象とする職業の種類及び修得可能な能力を具体的かつ明確に設定し、②関連分野の企業等の意見を取り入れて、対象とする職業に必要な実務的知識、技術及び技能を修得できるカリキュラムで、③主に実務家教員による講義やグループ討論、フィールドワーク等の科目で構成されており、④土曜開講など社会人が受講しやすい環境を整え、⑤修了者には学長名で履修証明書が交付される、などの条件を満たしたプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

＼こんな人に向いているプログラムです！／



地域に
根差した企業に
お勤めの方



まちづくりや
子育てサポートなど
地域と関わる団体で
活動されている方



これから地域活動を
始めたい方



市民と市民、市民と行政、
行政と企業を繋ぎ
パイプ役を担う
中間支援をされている方

CUC市民活動サポートプログラムの 特 長



「CUC市民活動サポートプログラム」ならではの特長をご紹介します。

市民活動について 体系的に学べる!

単発のプログラム、あるいはテーマを絞った短期間の講座とは違い、市民活動について体系的に学べます。各分野の専門家である大学教員が、理論から実践まで、幅広い知識を伝授します。市民活動に関わる中で組織運営や経営面等における課題を俯瞰し、認識することで解決の第一歩となります。



横のつながりが できる!

受講生同士のつながりはもちろん、イベント等を通じて卒業生とも交流することができます。このプログラムを通じて知り合った方々で新たな取り組み、活動を始めることも可能です。また、大学・大学教員とのパイプができることで、授業時間外、卒業後も活動に関するお悩みを相談することができます。



就職・転職活動に 役立つ!

本プログラムは、文部科学省より「職業実践力育成プログラム(BP)」の認定を受けています。修了すると履修証明書が交付されますので、就職・転職活動の際に実践的で且つ専門的な知識を身に付けたことの証明として、履歴書に記載するなどアピールポイントになります。



受講生特典

特別助成金に応募できる!

本学では、「地域志向活動助成金制度」を設けており、地域に関連する研究や社会に役立つ活動をする方々を応援しています。応募して採択されると、最大20万円の助成金と地域活動アドバイザーとして伴走してくれる教員や協働してくれる学生の紹介を受けることができます。

本プログラム受講生は、通常の「地域志向活動助成金制度」枠に先駆けて、特別枠にご応募いただくことが可能です。残念ながら採択されなかった場合も、再度、通常枠にご応募いただくことが可能です。

※受講生特典の特別助成金の募集時期は、2026年11月を予定しています。

※「地域志向活動助成金制度」の内容や実施時期は変更になる場合があります。

※特別枠にご応募いただく際には、それまでに受講された講義で一定の成績を修める等の応募条件があります。

卒業生の声

地域に密着した活動をされる方々の学び直しの間として開かれた「CUC市民活動サポートプログラム」。
受講のきっかけ、現在の活動の中で生かされている学びなど、卒業生に語っていただきました。



卒業生座談会①

即戦力を養う、

体系的・実践的な学びが魅力

榎戸…みなさんは2023年度の「CUC市民活動プログラム」を受講されたわけですが、振り返ってみて、どのような授業が印象に残っていますか？

浅田…「全国エリアでアンケートをとる」という演習で、「定期開催のイベントと、不定期開催のイベント、参加するならどちらがいいか」というアンケートをやったことがあるんです。結果は半々でした。一方には、何度も顔を合わせるうちに友だちができるからと、定期開催のほうがいいという人たちがいました。

他方、定期開催のイベントに途中から参加すると、「すでにでき上がっている輪のなかに入っていないかもしれない」とか、「人間関係が濃くなり過ぎるのは嫌だ」という理由で、不定期開催を選ぶ人もいたのです。

多くの人が求めているのは、そのとき、その場で出会って、その瞬間を自然体で楽しむ、軽やかなつながりなのかもしれないと思います。

飯塚…私は「地域分析実習」の授業が印象に残っています。無料のオンラインツールjSTATMAP^{※1}を使うと、国勢調査のデータなどを元に、地域の実態が簡単に見える化できるのです。ものすごく便利で感激しました。受講していなければ、こういうツールについても、知らないまま

だったと思います。

「組織マネジメントと管理会計」^{※2}の授業での戦略マップの作成は、自分が取り組む活動を、より客観的に考える機会になりましたし、「ファシリテーション演習」や榎戸先生の「非営利組織論・NPO法」の授業で学んだ内容は、地域での活動だけではなく、仕事上でも役立っています。

たまたま友人がこのプログラムの先輩で、その人の話を聞いて私も今回受講したのですが、大学の授業だけあって、地域活動・市民活動全般について、体系的に学べたことも大きな収穫でしたね。

榎戸…荒さんはプログラムの受講中に、NPOを立ち上げたのですよね？

荒…そうです。だから本当にすべての授業が、参考になりました。NPOのアイコンも授業でやったクラウドソーシングで作ったんですよ。



ファシリテーター
榎戸 敬介
千葉商科大学 総合政策学部教授

※1 jSTAT MAP…政府提供の統計地図作成オンラインツール。統計データを地図で見ること特化している。

※2…2026年度は「会計とアカウントビリティ：非営利組織の運営の観点から」という科目名で開講予定です。

浅田…「クラウドソーシング活用演習」、あれは実践的でよかったですよね。私もクラウドソーシングでアンケートをとったり、デザインを発注したりしました。あと、管理会計を学んで驚いたのは、自分が関わるNPOの課題や、ターゲットをどう絞ればいいのか、数字から見えてきたことです。これは目からウロコでした。

荒…マーケティングの授業では、企業の価値創造と社会貢献の関係も、興味深かったです。私たち「市川市にリーグクラブをつくる会」が、これから、地域企業と一緒に町づくりを考えていくときには、企業の視点からもメリットを考え、共通価値の創造を大切にしていきたいと思っています。

受講生同士のつながりも大きなパワーに

榎戸…現在このプログラムの受講を考えている方々には、どんなアドバイスを送りますか？

荒…地域社会において、自分の存在価値を見つけるうえで、このプログラムは何らかのヒントをくれると思いますし、新しいことを学びたいという方にも、よい刺激を与えてくれるはずです。

授業が有益で充実しているのはもちろんですが、さまざまな活動をしている受講者のみなさんに出会い、その思いや熱意に触れたことで、私はとても触発されました。これも大きなおすすすめポイントです。

実は当初、本当にNPOを立ち上げるべきか、悩んだこともあるんですよ。でも、「行政や企業の手が届かないところを埋めるのがNPOだ」という榎戸先生のことばに背中を押され、おかげさまで今に至っています。

飯塚…私の場合は、組織が目指す姿がヴィジョンなら、そのヴィジョンを実現するために何をするかがミッションだと、組織論を通じて整理できたことが大きかったです。いま関わっている地域での様々な活動は、ともすれば漫然と過ぎていきがちですが、ヴィジョンとミッションを明確にして関係者と共有したり、発信したりすることでより有意義に変わってくると 생각합니다。

浅田…私の場合、もともと我流でやっていた活動が、あまりうまくいっていなかったもので、学び直しのためにプログラムを受講しました。その結果わかったのは、自分の



荒 裕二さん
「特定非営利活動法人・市川市に「リーグクラブをつくる会」代表理事



浅田 由香さん
「いちかわ子育てネットワーク」所属

なかの「思い」とは別に、しっかりと体系的な知識が不可欠だということです。

活動に没頭しているときは、つい仲間うちだけで話をし、自分たちの活動しか目に入らなくなりがちです。私はプログラムに参加したおかげで、受講生同士の交流を通して視野を広げ、多角的、客観的に、自分の活動を振り返ることができました。

ですので、私のように「活動してみたけれどうまくいかなかった」という方にこそ、このプログラムで勉強して、ぜひもう一度チャレンジしてほしいと思います。

飯塚…市民活動に取り組む人たちにとって、このプログラムはハブのような存在です。定期的に開かれる「CUC地域交流会」にしても、もしそれがなかったら、私たちがこうして互いに知り合うことも、親しく語り合うこともなかったでしょう。

そのうえで思うのは、いつもの活動や生活の範囲から一歩踏み出して、こういうプログラムに飛び込むのは、それだけですごく楽しいよということです。

何しろ、もう一度、学生に戻れるんです



飯塚 学さん
我孫子市在住。自治会や町づくりイベントなどで活動中

からね。学生証をもらって、図書館だって使えます。授業のあと、みんなと学食でご飯を食べるなんて、30年以上ぶりです。そういうことも全部含めて、本当に実り多い日々でした。

榎戸…「CUC市民活動サポートプログラム」は、終わった後でみなさんの活動がどんどんグレードアップしていくという、珍しいプログラムです。ほとんどの受講者は社会人で、それぞれ現場経験や知識を身につけているわけですが、その本質は、本人にとっては当たり前すぎて説明しようもない、「暗黙知」と呼ばれるものです。教員の立場からすると、授業を通して垣間見えるみなさんの「暗黙知」こそ、とても貴重です。それぞれの「暗黙知」をどんどん出し合ってもらい、言葉、文章、数値、図などで表現可能な「形式知」、つまり誰もが理解し共有できる客観的な知識にしていく。本日、みなさんの率直なご意見をうかがって、大学ならではのそうした知の循環を、今後このプログラムで実現していきたいと思いました。

卒業生座談会②



より地域に役立つ活動や、 健全な組織運営を目指して、受講を決意

朽木…今回お迎えしたお二人は、どんな経緯で「CUC市民活動サポートプログラム」を受講されたのでしょうか。まずはきっかけから、教えてください。

楠本…私たち「一般社団法人超普通」では、ご当地アニメなどの制作を通じて、千葉県各市の魅力を伝える活動をしています。千葉商科大学の「地域志向助成金」に採択され、活動してきましたが、あるとき大学事務局から、「市民活動を支援する、こういうプログラムもありますよ」と、声をかけていただいたのです。ちょうど自分たちの活動を法人化するタイミングだったこともあって、お金の運用や組織のつくり方などを体系的に勉強したいと思い、2023年に受講をしました。

延嶋…私は勤務先の会社を中心にやって行っている、「元氣！市川会」の活動をおして、街づくりのお手伝いをしています。



延嶋 朋美さん

株式会社市川ビル勤務。広報担当

入社翌年、「千葉商科大学でこんなプログラムをやっているから、受講してみたら？」と会社から勧められ、参加したのが2021年です。当時はまだ、地域活動がどういうものなのかよく理解できていなかったのですが、この際、ゼロから学ぼうと思いました。

街の課題をレゴでつくと、 多様な視点が見えてきた

朽木…参加してみて、どんな授業が特に役に立ちましたか。

楠本…朽木先生の「総合演習」で、初日にやったレゴを使った活動が、すごくおもしろかったです。思考というのは抽象的なものですが、目に見えない自分の考えを、レゴブロックで形にし、グループワークの仲間たちに説明するんです。そうすることで、気づかなかった問題を発見したり、自分の考えが明確になったりしました。

朽木…ことはうまく表現できないモヤモヤした考えも、可視化すれば腹落ちするんですよ。その可視化の手段として、レゴを使っています。みなさんには、最初にアヒルを作ってもらいましたが、どれひとつとして同じアヒルはなかったでしょう？人の考えやものの見方は、それほど違うんで

す。そのことに気づくのも大切な学びです。
延嶋…アヒルはまだいいのですが、町の課題や自分の活動の課題を、レゴで表現するのはたいへんでした。独居老人の問題、少子化の問題、東京一極集中、道路や交通に関する問題など、それぞれ自分が気になっていることを苦労して形にし、言葉で説明したうえで、ほかの人の作品との関係性のなかで、改めてその問題を考えてみるのです。最終的には、「では理想の町の状態とは何か」を話し合うのですが、終始、とても頭を使う演習でした。

必要な経営学や会計学の知識も、 商科大学でしっかり学ぶ

楠本…私の場合、法人組織を運営する知識が不足していると自覚していたので、「経営学とマーケティング」や、「非営利組織論・NPO法」の授業が、すごく有益でした。初めての決算も、「組織マネジメントと管理会計」を学んでいたので、ずいぶん助かったのです。あの授業を受けていなかったら、貸借対照表をつくれといわれても、「何それ？」だったと思います(笑)。

朽木…管理会計といった科目は、やはり商科大学の真骨頂ですね。ただ、もちろん書類の作り方は授業で教えますが、作った書類をもとに、組織やマネジメントを改善していくことが、それ以上に重要なのです。息の長い市民活動を継続するためには、こうした視点やスキルが欠かせません。その

意識を責任者がもつだけでも、組織はずいぶん変わりますよ。

楠本…そういえば、「経営学とマーケティング」では、企業の非営利活動の事例について、毎週レポートを書かなくてはならず、正直しんどかったですね。でもたくさんの方の事例に触れたことで、地域活動に関心がある人たちのために、組織づくりや資金調達について、アドバイスなどをするサポートも、行うようになりました。

延嶋…私は楠本さんより2年早く受講したので、ちょうどコロナ騒動にぶつかってしまつて。1期から3期までのプログラムのうち、2期はオンライン授業でした。「クラウドソーシング活用演習」や「ファシリテーション演習」は、やはり対面で勉強したかったなと思うと、ちょっと残念です。でも、初対面の人が集まる場でみんなの緊張をほぐし、発言を引き出すためのアイスブレイクのスキルなどは、オンライン講義でも十分に身につiki、教わった直後から今に至るまで、いろんな場面で使っていますよ。

修了後も学び合い刺激し合う、 仲間たちとの出会い

延嶋…私は「地域分析実習」で、初めてリーサス RESAS[※]の使い方を習ったんです。地域のデータをグラフの形で可視化できるなんて、それまでまったく知りませんでした。

朽木…たとえば市川市には20代の転入が多く、30代の子育て世代になると転出して、40代、50代でまた転入してきます。リーサスを使えば、そうした人口動態が一目でわかり、「どうやらわが市には、子育てがしにくいという問題があるようだ」といったことも、見えてくるわけです。町の実態が、さまざまな角度から把握できますよね。

ところで授業以外にも、プログラムに参加してよかったことは、何かありましたか。
延嶋…会社のなかに閉じこもっていたは得られない、貴重な人的ネットワークが得られたのは収穫です。私はこのプログラムの2期生にあたるのですが、今も同じ2期生同士の定期的な交流は続いていて、それぞれの活動でがんばる仲間たちから刺激を受けたり、情報を交換したり、学び合ったりしています。

朽木…大学には、近隣のいろいろな地域から、いろいろな人たちが集まってきました。だからそこでは、幅広い知識や情報に俯瞰的に触れることも、より多様な人となつながらすることもできるのです。せっかくそうした

環境で学ぶのですから、プログラムが終わってからも、受講生や修了生、そして地域活動に感心のある人たちが参加する「CUC地域交流会」などを通じて、発展的に人的ネットワークを広げてもらいたいですね。

楠本…市民活動って、ついつい仲間うちで固まってしまうところがありますけれど、こうやっていろいろな人たちと交流することで、閉鎖的にならずにすむ気がします。これだけ充実した内容で学べたり、減多にできない経験をしたりできるのですから、受講料を払ってもプログラムを受けてよかったです。

朽木…受講を検討する際、仕事や家事に追われる社会人のみなさんは、「休まず最後まで通えるだろうか」と不安に思うかもしれません。「受講料を払って勉強する意味があるかな」と、ためらうかもしれません。しかし大学は教育が仕事です。みなさんが投資したお金や時間を上回る価値を、これからも提供していきますので、期待ください。



ファシリテーター
朽木 量
地域連携推進センター長、総合
政策学部教授

講義スケジュール・内容

開講期間は2026年5月～2027年2月の土曜日を予定しています。(途中、不開講期間があります)

※日程、時間、講師は変更になる場合があります。

※「総合演習」を除く講義については、1科目からの部分履修が可能です。

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、オンライン授業に変更する場合があります。

※講師のプロフィール情報は2025年8月時点のものです。

		科目	講師	時間	日程
総合演習	①	総合演習A(ゼミ)	朽木 量	9:00～10:45 10:55～12:40	5/16
		総合演習B(ゼミ)	朽木 量	9:00～10:45 10:55～12:40	2/6(2027年)
1期	②	経営学とマーケティング	坂本 旬	9:00～10:45	5/23、5/30、6/6、6/13、6/20
	③	非営利組織論・NPO法	榎戸 敬介	10:55～12:40	
2期	④	クラウドソーシング活用演習	熊野 健志	9:00～10:45	8/22、8/29、9/5、9/12、9/19
	⑤	ファシリテーション演習	影山 貴大	10:55～12:40	
3期	⑥	会計とアカウンタビリティ: 非営利組織の運営の観点から	千葉 啓司	9:00～10:45 10:55～12:40	11/14、11/21、11/28 ※11/28は9:00～10:45のみ
	⑦	地域分析実習	朽木 量	9:00～10:45 10:55～12:40	1/9、1/23、1/30(2027年)

① 総合演習A・B(105分×4回) ➡ 詳細は8ページ参照

本プログラム全体を通じて身に付けるコミュニティビジネスや地域に密着した活動を行う企業・団体の運営スキル、NPO・市民活動団体の運営や中間支援のスキルを実際に、ワークショップ演習で運用してみます。

② 経営学とマーケティング(105分×5回) ➡ 詳細は9ページ参照

経営学やマーケティングという視点を通して、非営利組織のマネジメントやその活動について考えることを目的とします。

③ 非営利組織論・NPO法(105分×5回) ➡ 詳細は10ページ参照

公共セクター、民間セクターと共に、第3のセクターとして必要不可欠になった非営利組織について、基礎に立ち返って理論と実践の両面から改めて考え直します。また、「NPO法」についても扱い、NPOだからこそこできることは何かを考えます。

④ クラウドソーシング活用演習(105分×5回) ➡ 詳細は11ページ参照

ネットワークを通じて仕事を発注するクラウドソーシングの仕組みと、これからのネットワーク社会において主役になっていくテレマネージャの心得についてパソコンを使った演習形式で学びます。

⑤ ファシリテーション演習(105分×5回) ➡ 詳細は12ページ参照

アイスブレイクの方法から、会議におけるファシリテーションの設計・実践までを演習形式で実際に行いながら学びます。

⑥ 会計とアカウンタビリティ:非営利組織の運営の観点から(105分×5回) ➡ 詳細は13ページ参照

簿記と会計の基本的な仕組みと特徴を講義します。そしてその仕組みがアカウンタビリティ(説明責任)と密接に関連していることを明らかにします。この関連性を基礎に、非営利組織の会計が、アカウンタビリティの観点からどのように構築されているかを示し、最終的には非営利組織の会計が、その運営に不可欠なツールとなることを解説します。

⑦ 地域分析実習(105分×6回) ➡ 詳細は14ページ参照

250m四方のメッシュごとの人口構成を踏まえた事業計画立案など地理情報システム(GIS)を運用した課題発見・解決型の学修と現地のフィールドワークを組み合わせて、地域分析の方法を具体的に学びます。



担当講師

朽木 量 Kutsuki Ryo

千葉商科大学総合政策学部教授。地域連携推進センター長。専門は、歴史考古学・民俗学・地域文化政策。LEGO®SERIOUS PLAY® メソッドと教材活用トレーニング修了認定ファシリテーター。

① 総合演習A・B(ゼミ)

講義内容

本プログラム全体を通じて身に付けるコミュニティビジネスや地域に密着した活動を行う企業・団体の運営スキル、NPO・市民活動団体の運営や中間支援のスキルをワークショップ演習で実際に運用してみます。授業は、LEGO®SERIOUS PLAY® メソッドと教材を活用したワークショップ形式などで行われます。

講義計画

- 第1回 講座概要、講師・受講生自己紹介、各自の活動が抱える課題についての省察
- 第2回 LEGO®SERIOUS PLAY® メソッドと教材を用いた組織と自己の課題についての省察を行うワークショップ
- 第3回 ワークショップ形式の双方向型授業による「つながり力」の可視化
- 第4回 ワークショップ形式の双方向型授業による講座全体の振り返り

到達目標

コミュニティビジネスや地域に密着した活動を行う企業・団体の運営スキル、NPO・市民活動団体の運営や中間支援のスキルを活用できるようになることを目標とします。さらに、今後の活躍に向けて自律的にスキルと意識を高めることが出来るようになることを目標とします。

成績評価方法

授業への貢献度や講師が指示する課題等を総合的に判断して可否を判定します。

受講前の学習

授業はU理論に基づき展開します。興味がある方は以下の書籍を下読みしておいてください。

- ・『U理論：過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術 第2版』オットー シャーマー著／英治出版(2017年刊)
- ・『U理論入門：人と組織の問題を劇的に解決する』中土井僚著／PHPエディターズ(2014年刊)



担当講師

坂本 旬 Sakamoto Jun

千葉商科大学商経学部准教授。博士（経営学）。専門は経営史。経営学や経営戦略論、マーケティング論、アート・マネジメント論（大学院）などを担当。

② 経営学とマーケティング

講義内容

経営学やマーケティングは、企業をはじめとした組織が新たな価値を生み出し、市場や環境の変化に適応しながら存続するための方法や仕組みを考えるものです。近年では、従来、営利組織に適用されてきた経営学やマーケティングの諸概念が拡張されることで、様々な非営利組織にも適用されるようになっていきます。そこで本講義では、経営学やマーケティングという視点を通して、非営利組織のマネジメントやその活動について考えることを目的とします。マーケティング論や経営戦略論、経営組織論といった経営学分野の考え方を非営利組織に適用することで、理念や理想の実現を目標とした非営利組織のより良いあり方を検討します。

講義計画

- 第1回 経営学とマーケティングの基本的な考え方
- 第2回 非営利組織におけるマーケティング・ミックス
- 第3回 非営利組織のマネジメント
- 第4回 非営利組織の戦略
- 第5回 リレーションシップ・マーケティングと非営利組織

到達目標

経営学やマーケティングの基本理論を理解し、それらを用いて非営利組織が直面する問題や抱える課題について考察し、解決するための発想力を高めることを目標とします。

成績評価方法

講義内の課題や、講義に対する貢献度を勘案して総合的に評価します。

受講前の学習

経営やマーケティングに関する新聞記事やニュースなどに注意を払い、講義資料や参考文献の内容を事前に確認してください。



担当講師

榎戸 敬介 Enokido Keisuke

千葉商科大学総合政策学部教授。都市計画・都市デザイン・都市観光の実務と研究に従事。アメリカ・カナダでの留学、海外都市での調査を通し、都市と人間の多様な関係について研究を行っている。

③ 非営利組織論・NPO法

講義内容

非営利組織は、公共セクター、民間セクターと共に現代の市民生活を支えるために不可欠な第3のセクターとして認知されています。本講義では、都市・地域の再生や持続可能性の観点を中心に、理論と実践の両面から非営利組織について学びます。本講義は、受講生の積極的な参加を基本とし、双方向の議論を通して新たな知見の創造をめざします。

講義計画

- 第1回 非営利組織の役割と機能
- 第2回 セクターとしての非営利組織の優位性と有意性
- 第3回 非営利組織の事例
- 第4回 非営利組織の法制度（講師：環境生活部県民生活・NPO 法人班）
- 第5回 個人プロジェクト発表

到達目標

非営利組織についての基礎的理論を修得すること、非営利組織の現状や課題を理論的に説明できるようになること、非営利組織を企画し、運営する能力を高めることをめざします。

成績評価方法

授業への貢献度や講師が指示する課題等を総合的に判断して合否を判定します。

受講前の学習

指定教材での事前学習をお願いします。



担当講師

熊野 健志 Kumano Kenji

市川市在住 市川市消防団副団長 米国PMI認定PMP(1199812)
日本テレワーク学会理事 国家資格キャリアコンサルタント 司書
東京工業大学(現 東京科学大学)大学院修了 技術経営修士

④

クラウドソーシング活用演習

講義内容

情報通信分野は、コロナ禍、そしてAI革命を経て、大きな変貌を遂げました。それらは私たちのワークスタイルにも、ライフスタイルにも大きな影響をもたらしました。それはどのような変化なのでしょう。この講座では新たな情報通信技術によってもたらされたクラウドソーシングの実践的活用法を学ぶことにより、未来の仕事の姿を体感していただきます。同時に、地域ビジネスを成功させるために欠かせないテレマネージャーとしてのふるまいを身につけていただきたいと思います。

講義計画

- 第1回 クラウドソーシングの概要
クラウドソーシングについて、その仕組みとこれからの社会に与える影響について紹介します。さらにクラウドソーシングへの登録をします。
- 第2回 クラウドソーシングへの登録と発注(実習I)(クレジットカードをご持参ください)
実際にクラウドソーシングに発注するまでを体験します。
- 第3回 クラウドソーシングの検収(実習II)
第2回で発注した内容を確認した後、検収を体験します。
- 第4回 アポロ13号に見るテレワーク活用の要諦
1970年に発生したアポロ13号の事故を検証しながら、ネットワークを使って仕事をする意義を考察します。
- 第5回 クラウドソーシングの発注・検収の振り返り(実習III)
第2回、第3回の実習を振り返りながら、これからのワークスタイルの変化を考察します。

到達目標

クラウドソーシングの発注を体験し、それぞれの地域活動への応用を考えることをめざします。

成績評価方法

授業への貢献度や講師が指示する課題等を総合的に判断して可否を判定します。

連絡事項

講義の中で、クラウドソーシングで発注するにあたり、数百円～数千円程度の費用がかかります。(クレジットカードを使用)



担当講師

影山 貴大 Kageyama Takahiro

合同会社 J-doc company 代表社員。松戸市、鎌ヶ谷市、印西市等にて NPO 支援センターのコーディネーターを歴任。数々のまちづくりプロジェクトのファシリテーションやコーディネーションを行う。

⑤ ファシリテーション演習

講義内容

地域の現場や会議の場で活きるファシリテーションの技法をワークショップを通して学びます。講義の中では受講生同士による協働作業や対話を通じて学びを深めていきますので、授業への主体的な参加をお願いします。

講義計画

- 第1回 オリエンテーション・ファシリテーション概論
- 第2回 話し合いの場を活性化する傾聴力と質問力
- 第3回 話し合いを可視化するグラフィックレコーディング演習
- 第4回 場の企画 / ゲーミフィケーションを用いたファシリテーション体験
- 第5回 企画フィードバック / ふりかえり

到達目標

ファシリテーションの技法やマインドをワークを通じて体得し、自ら場づくりの企画を立てることができるようになることをめざします。

成績評価方法

授業への貢献度や講師が指示する課題等を総合的に判断して可否を判定します。

受講前の学習

余力があれば、事前に各自治体で実施されている対話の場（意見交換などの場）等に参加し、地域の間づくりの雰囲気を体感してみてください。



担当講師

千葉 啓司 Chiba Keiji

千葉商科大学商経学部教授。企業の会計を専門としながらも、アカウンタビリティ（説明責任）の観点から、会計をとらえる研究をしている。説明責任の観点は、企業の会計、公的組織の会計、非営利組織の会計に共通している。

⑥

会計とアカウンタビリティ:非営利組織の運営の観点から

講義内容

簿記と会計の基本的な仕組みとその特徴を講義します。そしてその仕組みがアカウンタビリティ（説明責任）と密接に関連していることを明らかにします。この関連性を基礎に、非営利組織の会計が、アカウンタビリティの観点からどのように構築されているかを示し、最終的には非営利組織の会計が、その運営に不可欠なツールとなることを解説します。

講義計画

- 第1回 会計の基礎
- 第2回 会計におけるアカウンタビリティ
- 第3回 非営利組織の会計の特徴
- 第4回 非営利組織のアカウンタビリティと会計
- 第5回 非営利組織の運営と会計

到達目標

簿記会計の仕組みがアカウンタビリティの見地から構築されている点、ならびに非営利組織の会計の特徴、その運営への役立ちを理解することを目標とします。

成績評価方法

授業への貢献度や課題などから総合的に判断して成績を評価します。



担当講師

朽木 量 Kutsuki Ryo

千葉商科大学総合政策学部教授。地域連携推進センター長。専門は、歴史考古学・民俗学・地域文化政策。LEGO®SERIOUS PLAY® メソッドと教材活用トレーニング修了認定ファシリテーター。

⑦ 地域分析実習

講義内容

地域の現状について適切に分析し、事業計画立案に結びつけるための各種の分析法を学びます。例えば、「jSTAT MAP」を用いて、250m四方のメッシュごとの人口構成を踏まえて事業計画を立案したり、地域経済分析システム「RESAS」を用いて地域・イベントへの来訪者とその構成を分析したり、「地域経済循環分析自動作成ツール」を用いて地域産業の分析を行います。これらのデータをもとに、受講者各人が携わる地域活動・地域密着型ビジネスの事業計画の策定・改善を、実践的に考えていきます。（現地調査を実施します）

講義計画

- 第1回 「jSTAT MAP」を用いたエリア分析（パソコンを用いた実習）
- 第2回 「RESAS」を用いた地域分析（パソコンを用いた実習）
- 第3回 「地域経済循環分析自動作成ツール」を用いた産業の分析（パソコンを用いた実習）
- 第4回 「歴史的農業環境閲覧システム」を用いた 150 年前の景観復元（パソコンを用いた実習）
- 第5回 フィールドワーク（現地調査）
- 第6回 フィールドワーク（現地調査）

到達目標

地域活動・地域密着型ビジネスに役立つ地域分析の手法を、受講者各人の実際の活動に即して習得し、事業計画を策定、改善する際の視点を獲得することをめざします。

成績評価方法

授業への貢献度や講師が指示する課題等を総合的に判断して合否を判定します。

受講前の学習

経営学とマーケティングで学んだ内容を前提に講義を進めます。復習をした上で受講してください。

連絡事項

パソコンを用いた実習部分は、地理情報システム（GIS）についての専門的知識は必要としません。パソコンを使ったウェブサイト閲覧が出来る基礎的スキルがあれば充分です。フィールドワーク時の交通費は、各自負担になります。

— 募集要項 —

1 募集人員

受講生・・・20名程度

- 7科目計35回すべての授業を受講する必要があります。全科目を一定以上の成績評価を得た場合、履修証明書が交付されます。
- CUC市民活動サポートプログラムは通常の学位プログラムとは異なり、本学の正規の履修科目と同様の単位や学位が授与されるものではありません。
※最少催行人数(10名)に満たない場合は開講しない場合があります。

部分履修生・・・受講生数によって調整

- 一部の科目のみを履修する場合に部分履修生となります。
- CUC市民活動サポートプログラムは学位プログラムとは異なり、本学の正規の履修科目と同様の単位や学位が授与されるものではありません。
- 受講生数が大幅に超過した場合、希望する科目を履修することができない場合があります。
- 「総合演習 A・B」は履修できません。

2 申込資格

高等学校を卒業以上、または高等学校卒業と同等以上の学力があると認められた方は申込できます。中学校卒業の場合等は、個別審査を行います。

3 申込書類

次の書類を揃えて申込期限内にオンラインフォームから申込してください。(申込方法は [5](#) を参照してください)

申込書類	提出上の注意
1. 申込書	所定の手紙をウェブサイトからダウンロードして使用してください。
2. 志望理由書	所定の手紙をウェブサイトからダウンロードして使用してください。
3. 卒業を証明する書類	最終学歴の証明書または卒業証書の写真データ、またはスキャンデータ *婚姻等により、上記の書類に記載された氏名が現在の氏名と異なる方は、公的身分証明の写真データ、またはスキャンデータもご用意ください。 *本学を卒業された方は、事務局で確認しますので、データ送信は不要です。卒業時の氏名(ふりがな)を申込書の学歴欄に明記してください。
4. 証明写真	顔がはっきり写っているバスタップの写真データ

※部分履修を希望される方は申込書類1、2、4のデータを送信してください。

※1、2はワードデータをご提出ください。

4 申込上の注意

- ・申込書類に不備がある場合、受け付けないことがあります。
- ・入学後、出願に際して提出した書類、記載事項に不正が認められた場合は、受講を取り消すことがあります。
- ・外国籍の方は、住民票記載の本名を用いてください。ただし、通称名も併記してある場合は、通称名を用いてもかまいません。この場合、すべての出願書類の氏名を統一してください。
- ・一度受理した申込書類は返却しません。
- ・車での通学は認められておりませんので、ご了承ください。
- ・受講にあたり、課題作成やオンライン授業に切り替わった場合等のため、PCをご用意ください。

5 申込方法・申込締切

申込方法：下記ウェブページにアクセスし、応募用ファイル送信フォームからお申込ください。

早割締切：2026年2月15日(日) 23:59

最終締切：2026年3月31日(火) 23:59

<https://www.cuc.ac.jp/event/2025/risyusyomei.html>

CUC市民活動サポートプログラム

検索



※申込書類の1と2は上記ページからダウンロードできます。

※申込方法についてご不明な点がございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

6 審査方法

受講生・部分履修生ともに書類審査のみ、選考料は無料。申込書類に基づき審査を行います。

7 結果通知

2026年4月下旬

審査結果は、Eメールでご連絡します。

— 受講手続 —

1 受講料

〈早割〉受講生	35,000円(税込)
受講生	40,000円(税込)
部分履修生	10,000円／1科目(税込)
保険料(任意)	1,140円※

※損害保険に加入される場合は、保険料も併せてお振り込みください。加入手続きは事務局で行ないます。損害保険の詳細については、下記、事務局までお問い合わせください。

【注】別途、テキスト代や学外授業時の交通費等の実費が発生する場合があります。

2 受講手続き上の注意

- ・受講生、部分履修生ともに、結果通知後、結果通知に同封している書類に記載しているお振り込み締切日までに受講料をお振り込みください。振込先などの詳細につきましては、審査結果通知においてご案内します。
- ・一旦、納入された受講料は、いかなる場合も返金できませんのでご了承ください。

お問い合わせ先

千葉商科大学 社会連携推進課
「CUC市民活動サポートプログラム」事務局

〒272-8512 千葉県市川市国府台 1-3-1

TEL：047-320-8667

E-MAIL：cucr@cuc.ac.jp

※事務取扱時間 月～金 9:00～17:00(祝日を除く)

アドミッションポリシー（求める受講生像）

- コミュニティビジネスや地域密着型ビジネス等を行う企業や団体、市民活動団体や地域活動団体などで活動しており、活動内容を向上させるための「学び」に対して高い関心がある。
- 市民活動やNPO等の活動支援を行っている市民活動センターなどの中間支援組織のスタッフで専門的な知識やスキルの獲得に意欲を持っている。
- コミュニティビジネス・市民活動・地域活動等に関心があり、本学が提供するプログラムにより新たな知識・スキルを学ぶ意欲がある。

カリキュラムポリシー

CUC市民活動サポートプログラムにおいては、その特徴である「総合演習（ゼミ）」および必修科目（地域分析・ファシリテーション技術・組織マネジメント・マーケティング等）を設置する。

●総合演習（ゼミナール）

LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材を活用したファシリテーション・セッションを導入することで、受講者一人ひとりの目的意識をより洗練させることをサポートし、受講後の振り返りに向けての指導を実施するゼミナール。

●必修科目

必修科目の特徴は、経営・マーケティング・組織マネジメントの知識とそれらを運用する経営スキル、地理情報システム（GIS）を駆使した地域密着型ビジネスや非営利組織の課題分析力、クラウドソーシング活用能力や高度なファシリテーション能力などを修得してもらい、団体を運営するために必要な経営に関する知識や技術を身に付けてもらうことを目的に設置する。

修了要件

必修科目7科目、計35回（合計61時間25分）を受講し、各科目について一定以上の成績評価を得た場合、「履修証明書」を発行し、「千葉商科大学認定 市民活動エンハンサー」の称号を授与します。

「CUC市民活動サポートプログラム」

受講をご検討いただいている皆様へ



地域連携推進センター長

朽木 量

千葉商科大学は、創立から約100年の歴史がある社会科学の総合大学です。地域との長い付き合いがあり、総合大学の知見を生かして、ビジネス、政策、環境、防災といった幅広い分野において、地域の課題解決に貢献してきました。

地域に精通していることが強みの本学で、地域社会の知との接点であり、活動の拠り所となるのが、「地域連携推進センター」です。地域連携推進センターでは、地域の皆さんと一緒に課題に取り組む場づくりを行い、持続可能で創造性のある地域づくりを支援しています。

具体的には、地域活動団体の経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)をすべて提供して地域活動団体とつながってこうと考えています。そのために、地域に役立つ活動を行う方々に対して助成金や教員・学生のサポートを受けられる地域志向活動助成金制度の設置(ヒト・カネの提供)、地域の方々を対象とした各種講座・子ども向けイベント等の開催(情報の提供)、図書館やコミュニティルームなどキャンパス内の施設の無償貸し出し(モノ・場所の提供)を行っています。これらの具体的な施策を通じて、従来の大学にない新しい形での市民の方々との関係構築を進めています。

その1つであるCUC市民活動サポートプログラムは、2019年に誕生しました。一般的な教養講座とは一線を画し、最新の学術的知識、情報、理論を伝え、大学と地域が一緒に考える場として、これまでに100名を超える市民の方々に学びの場として活用いただきました。

受講した皆さんからは、「漠然と抱えていた問題意識を整理できた」「活動中に行っていたオペレーションを俯瞰して見ることができた」「自分の活動の意味を再認識できた」「他の人がどんな活動をしているのか具体的に知ることができて刺激になった」などの声をいただいています。受講をきっかけに、企画・運営の中心人物として地域イベントを開催された方、講義で学んだことを所属団体に持ち帰って運営や経営を改善できた方など、活躍の幅を広げていらっしゃいます。

本プログラムを通じて、大学という知のコミュニティにアクセスすることで、市民活動に関する体系的な知識を得ながら、受講生や教員との繋がりができることは、皆さんの今後の活動に大変役立つのではないかと思います。問題解決だけではない、新たな価値、文化を生み出す、そんな市民活動をめざして、ともに学び、ワクワクしながら、地域づくりの第一歩を踏み出しましょう。

千葉商科大学は、地域に1番近い大学を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

1 CUC地域交流会

「CUC地域交流会」は、地域の人同士はもちろん、「CUC市民活動サポートプログラム」の修了生、大学の教員や学生など、さまざまな人同士が集まり「繋がる」きっかけの場となるイベントです。3カ月に1度程度、定期的に開催しています。市民活動に役立つ、本学教員によるミニ講座やグループワークなどを行います。



2 CUC地域連携フォーラム

「CUC地域連携フォーラム」は、さまざまな地域・社会の課題について考えるためのイベントです。基調講演、本学の地域連携の取り組みの紹介に加え、本学の「地域志向活動助成金制度」(4番参照)を活用した団体の活動発表を行います。市民活動の具体的事例を知り、活動に参加している人と交流ができる機会となります。



3 地域活動推進室(CUCリンクルーム)

地域住民の方も登録することで利用いただけるフリースペースです。ミーティングスペース、ノートPC、プリンタ(コピー機)、プロジェクター、スクリーン、子ども用プレイエリア等の設備があります。



4 地域志向活動助成金制度

本学では、「地域志向活動助成金制度」を設置しており、地域に関連する研究や社会に役立つ活動をする方々を応援しています。応募して申請が通ると、最大20万円の助成金と地域活動アドバイザーとして教員、学生のサポートを受けることができます。「CUC市民活動サポートプログラム」受講生は先行して行う特別枠に応募いただくことが可能です。

ACCESS

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。駐車場の用意はございません。

最寄り駅まで

※4路線4駅からアクセス可能

数字は本学までのおおよその所要時間



最寄り駅からのアクセス

《JR総武線 市川駅》(東京駅から快速で20分)

- 徒歩20分
- バス利用の場合／駅前京成バス1番のりば
松戸駅行または松戸営業所行に乗車10分

《京成線 国府台駅》(京成上野駅から30分)

- 徒步10分

《北総線 矢切駅》(印西牧の原駅から27分)

- 徒歩20分
- バス利用の場合／駅前京成バスのりば
市川駅行に乗車10分

《JR常磐線 松戸駅》(柏駅から15分)

- バス利用の場合／駅前京成バス1番のりば
市川駅行に乗車20分

◎バス利用の場合、いずれも「和洋女子大前」下車 徒歩3分



Webサイト
www.cuc.ac.jp

CUC

檢 索

スマホ・PCからアクセス!